

ビスと連動した推薦エンジンの開発とその効果を分析した。

「クオリティ志向型人材育成とスマート・ビジネス・コラボレーション」 ー経営品質科学に関する研究ー

研究代表者 山下 洋 史

当該オープンリサーチセンター整備事業（以下「ORC」）「クオリティ志向型人材育成とスマート・ビジネス・コラボレーションー経営品質科学に関する研究ー」プロジェクトでは、2007年4月に駿河台キャンパス11号館2Fに「経営品質科学研究所」を開設し（現在は猿楽町校舎に移転）、当該研究所を拠点に約50名のメンバーが積極的な研究活動を展開している。このORCプロジェクトは、2002年度から2006年度の研究期間で行われた文部科学省 学術フロンティア推進事業「先端的グローバルビジネスとITマネジメントーGlobal e-SCMに関する研究ー」を基にして発足した研究プロジェクトであり、ほとんどの学術フロンティア・メンバーが当該ORCプロジェクトに参加している。上記学術フロンティア研究プロジェクトでは、5年間の研究期間の間に多くの研究成果を生み出してきたが、こうした研究活動を、企業活動のグローバル化と情報化のシナジーという観点から進めていけばいくほど、経営のクオリティと人材育成の重要性を痛感するに至り、当該ORCプロジェクトを立ち上げたのである。当該ORCプロジェクトでは、こうした問題意識に基づき、文理・産学・製販のコラボレーションによる「経営品質科学」という新たな学問領域を開拓すべく、Q-ECM（Quality Oriented Education Chain Management；組織の壁を越えたコラボレーションによる教育の全体最適化）のコンセプトを提示し、図1に示すような研究組織で積極的な研究活動を展開している。これにより、経営品質科学の理論と体系の構築をめざしていくのである。

5年間の研究計画の3年度に当たる2009年度は、経営品質科学の構築に向けた研究活動の基盤となる枠組み・コンセプトをより精緻化するとともに、それに基づく積極的な研究活動を展開し、文部科学省に研究進捗状況報告書（中間報告書）を提出した。

2009年度の研究成果は、60本以上の論文、70件以上の学会発表（うち、10件は国際大会発表）、30回以上の研究会、2回の公開講座、1回の国内シンポジウム、1回の国際シンポジウム等を通じて公表されている。上記の論文・学会発表研究は、関連学会からも高く評価され、4名のORC研究メンバー（折戸洋子・山下洋史・村田潔：研究分担者、臧巍：研究協力者）の共同研究“Balancing between Efficiency and Effectiveness in Manufacturing through a Mass-customisation System: The High-low Entropy Framework”がAPCIM2009（Asia Pacific Conference on Information Management）の国際会議にて最優秀賞（the Best Paper）を受賞している。

クオリティ志向型人材育成とスマート・ビジネス・コラボレーション ー経営品質科学に関する研究ー



図1. 当該研究プロジェクトの組織とテーマ

一方で、こうした研究成果をタイムリーに学部教育および大学院教育に還元すべく、当該 ORC プロジェクトでは 2009 年度、学部間共通総合講座として、すでに開講済の 3 講座に加えて新たに 1 講座を開講し、計 4 総合講座講座を開講している。また大学院では商学研究科と理工学研究科で各 1 科目を開講している。

さらに、当該研究プロジェクトの研究成果を社会に還元すべく、2009 年 9 月 10 日に当該 ORC メンバー 3 名（山下・西・鄭）による「ORC 夏季公開講座 2009ー日本人の行動モデルと日本企業のクオリティー」を経営品質科学研究所にて開催し、2009 年 10 月 15 日には当該 ORC メンバー 2 名（金子・鄭）による「ORC 秋季公開講座 2009ークラウド・コンピューティングの行方」を山梨学院大学にて開催した。

また、3 名のメンバー（研究分担者の風間信隆・原頼利・折戸洋子）が、文部科学省科学研究費補助金に採択されたことも、当該 ORC プロジェクトの研究課題から派生した 2009 年度の重要な副次的効果である（これまで採択されている件数を含めて計 11 件）。

一方で、2009 年 9 月には、文部科学省に 2 年半にわたる当該研究プロジェクトの研究進捗状況報告書（中間報告書）を提出した。当該研究プロジェクトの研究活動および研究成果の公開活動は、2009 年 9 月の時点で、既に研究発表 213 件（当初の計画の 213%）、論文掲載 156 件（312%）、メンバーの学位取得 8 件（267%）、国内シンポジウム開催 3 件（167%）、国際シンポジウム開催 2 件（100%）というように、それぞれの達成目標をはるかに上回る成果をあげており、外部評価委員会（委員長：常田稔、早稲田大学社会科学部教授）による中間評価で総合評価 A という高い評価を得た。

以上の研究活動は、商学・経営学・情報科学・経営工学にまたがる文理融合型の学際的研究をめざした当該 ORC プロジェクト・メンバーの研究成果を端的に表している。すなわち、Q-ECM のマネジメント・コンセプトを中核に据えながらも、既存の学問領域に閉じた議論でなく、品質管理・企業統治・人材育成・マーケティング・財務管理・グローバルビジネス・経営戦略・ロジスティクス等の研究テーマを多面的に論じているのである。これにより、「クオリティ志向型人材育成」と「スマート・ビジネス・コラボレーション」の視点から企業活動の「全体最適化」が論じられているのである。

当該 ORC プロジェクトの研究活動は、明治大学内外の多くの方々のご理解とご協力に支えられている。とりわけ、明治大学研究・知財戦略機構と商学研究所の関係者の方々から多大なるご協力をいただいたことに対して、深く感謝の意を表したい。当該 ORC 研究が「経営品質科学」という新たな研究領域の扉を開け、商学・経営学・情報科学・経営工学の今後の発展に対して多少なりとも貢献するよう、今後も積極的な研究活動を展開していく所存である。